

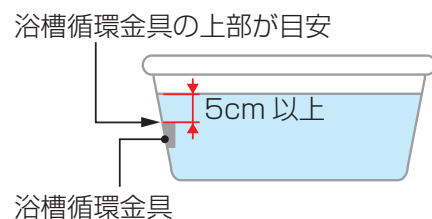
東芝エコキュート ESTIA へご使用のお客さまへ

凍結のおそれがあるとき… について

近年、寒波の影響で一般地においても凍結による破損事故が多く発生しています。凍結して配管などが破損する恐れがある場合は、下記の対応を行ってください。

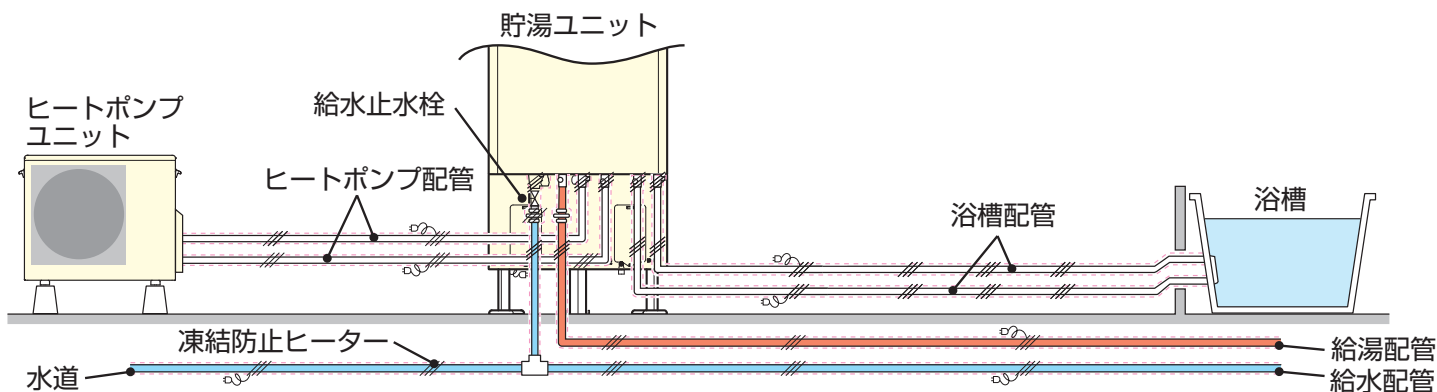
1. 浴槽配管の凍結を予防する（お風呂の残り湯循環）

- 入浴後、お風呂のお湯を排水せず残しておく。（浴槽循環金具から5cm以上）外気温が下がると浴槽のお湯を循環して浴槽配管の凍結を防ぎます。
 - 浴槽にお湯がない場合でも、外気温が下がるとポンプが運転し、浴槽循環金具からお湯や水が出ることがありますが、異常ではありません。
- ※ 浴槽配管に凍結防止ヒーター工事をした実施した場合には、本操作は不要です。



2. 凍結防止ヒーターを使う

- すべての凍結防止ヒーターの電源プラグを100Vコンセントに差し込む。
- ※ 凍結のおそれがない場合は、ヒーターは巻かれていません。不明な場合は販売店にご確認ください。
- 凍結のおそれがない季節は、ヒーターの電源プラグを抜いておいてください。



3. 少量の水を流し続ける（給水配管、給湯配管の凍結防止）

- 外気温が0℃以下になると給水・給湯配管に保温工事がしてあっても、配管が凍結することがあります。そのような場合は、下記手順にしたがって少量の水を流し続けてください。
- ① 夜、お湯を使わなくなったらリモコンの給湯温度を「27℃」に設定する。
 - ② 混合水栓のお湯側を少し開き、糸引き状態に水を流す。（200cc/分程度）
 - ③ 翌朝、お湯を使用するときは混合水栓のお湯側を閉じ、給湯温度を変更する。

4. ヒートポンプユニットの凍結防止（自動で行います）

- 外気温が下がると、循環ポンプを運転してヒートポンプユニット配管内の水を循環します。ポンプが運転しても凍結のおそれがある場合は、自動的に沸き上げ運転を行い凍結予防します。

ファンやポンプが運転しているとき

- ヒートポンプユニットは、停止中も外気温によりファンを運転することがあります。
- 厳寒期以外でも、外気温によっては循環ポンプが運転することがあります。